

## 9年振りの共同生活

第11期OB 立松 宗磨

「Tokyo」にテレビの前で一人歓声を挙げたあの瞬間から早6年強、ついに待ちに待った Tokyo 2020 が近づいてきました。抽選は見事に外れまくっているのですが、幸いにもアーティストックスイミング（昔で言うところのシンクロ）団体の決勝チケットが確保できました（そういえば去年のエッセイに書き忘れましたが、2018年には会社に無理言って2週間有給を取りW杯を見に行くぐらいにはスポーツ観戦好きです）。そんな6年強という期間より更に長い9年振りに、2019年は他人（しかもインドネシア人）との共同生活をしていました。大学1年生からずっと一人暮らしをしており、自分リズム/様式の生活に慣れきっていた私にとって、共同生活は正直辛いことの方が多かったです（食事のタイミングと内容、水回り、洗濯物の洗い方や畳み方、周りの生活音等々）。また、日本では経験できないトラブルも多数経験しました。具体的には、16時間にも及ぶ停電（基本暑いのでエアコン使用不可は地獄です）、3.5ヶ月に及ぶ部分断水、部屋を駆け抜ける黒い影（ネズミ）等…。一方、もちろん共同生活（ホームステイ）ならではのメリットもあり、語学力の向上（家では初日から All インドネシア語でした）や文化の学習には大いに役立ちました。



世界遺産ボロブドゥールでの1枚

続いて、簡単に語学研修中の1日の流れを紹介したいと思います。朝は7時前に起床（初期は4時半頃に鳴り響く、アザーンというモスクからのお祈りを呼び掛ける放送に何度も起こされました...）、8時半から13時までは集団授業（1クラス約15人で韓国人7割、日本人2割、その他1割。日本人は私のような企業派遣生の他に、外語大の大学生や駐在員の奥様がいました）、昼食（主に1食100円強の現地学生向け食堂にて）を挟んで14時から16時まで追加の個別授業、それが終わるとフリーとなり、2時間程陸上サークルの練習に参加したり、カフェで勉強したりして帰宅。ステイ先の家族と一緒に夕食を取り、あとはフリーといった感じです。こう書くと非常にさっぱりとしていて面白くないように見えてしまうのですが、実際には日々トラブルや新しい発見があり、刺激の多い1年だったと言えます。



コモド島近く、パダール島でのトレッキング。  
山と海のコントラストが絶景！

また学期間には長期休暇があり、同期間を利用してインドネシアの地方に多く旅行しました。世界的なリゾート地であるバリ島には6回行きましたし（ダイビングの上級ライセンスも取得しました）、他にはコモドドラゴンが有名なコモド島、ボロブドゥール遺跡とプランバナン寺院という2つの世界遺産を有する古都ジョグジャカルタ、世界最大のカルデラ湖であるトバ湖、野生のオランウータンが生息するスマトラ島の熱帯雨林、青い炎が有名なイジェン火山等々。いずれも日本にはない景色や（スリル満点の）アクティビティが揃っており、語学勉強のみならず、こういった地方の観光地や文化を経験する時間をくれた会社には感謝です。もし気になる方がいらっしゃれば紹介しますので、是非聞いて頂ければと思います。

そんな1年間の語学研修を終え、現在は三菱ふそうのディストリビューター（三菱ふそう、現地パートナー、三菱商事の共同出資会社）において、アフターセールス（部品・サービス）部門で実務研修をしております。研修期間は3ヶ月と非常に短いにも関わらず、今回担当する仕事は全くの未経験の為（東京勤務時代はベトナム/三菱自動車/販売や会社全体の損益が担当だった為、インドネシア/トラック/アフターセールスと初尽くしです）、正直テンパっております。早くも残り2ヶ月半となりましたが、（語学力も活かして）何らかの貢献ができるよう、頑張る所存です（ちなみに会社の会議は全てインドネシア語です）。



コモド島のピンクビーチ。  
砕けたサンゴにより、ビーチがピンク色に見える。

同研修終了後の3月中旬には日本に帰国します。OB会に顔を出せないのは残念ですが、どこかのタイミングでまたゼミにも顔を出せたらと思っております。短くて恐縮ですが、この辺で終わります（インドネシア生活中の写真でスペースを稼ぎたいと思います。笑）。



陸上サークルの友人（現地学生）と（著者は最後列、右から2番目）。



ホームステイ先家族とのランチ（著者は左から3番目）。